

松本市広報R5-37

- 問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
- 編集 公民館報編集委員会
- 印刷 株式会社プラルト

公民館報

発行
2023
7/30

まつもと



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 62
なごし おおはらえ

夏越の大祓

夏と冬、年に二度の大祓
身についたけがれを祓い 無病息災を祈る
残り半年も幸あれ!!

(撮影 2023.6.30 四柱神社)

松本手まり時計まつり開催

恒例の第23回松本手まり時計まつり・第45回松本市公民館活動発表会(以下まつり)が行われ多くの入場者でにぎわいました



4年ぶりの本格開催 手まり時計まつり

5月27・28日、まつりは好天に恵まれ、作品展示・ステージ・ワークショップ・映画上映やポートレート撮影などが行われました。

手まり時計の周辺の路上では、もったいない市やこども縁日などもあり、飲食ブースで参加した団体「ワンパーク」は、子どもたちが作ったケーキやコーヒーなどを提供していました。

代表の谷川秀美さんは「食育や地産地消を通じ、子どもたちが主役となって信州や松本を元気にしたい」と話してくれました。

まつりは平成11年から、Mウィング管理組合や周辺の商店街組合など

まつりの歩み

美子さんは「活動の成果の作品を、たくさんの人に見てもらえるし、活動に興味を持ってくれる方もいる」とのお話でした。

実行委員会によると「委員会を構成する団体に変更があったため、次年度以降、委員会組織がどのような構成になるかは未定だが、まつりの開催に向けて前向きに協議していきたい」とのことでした。

今後の運営のかたち



あ!消えた!マジックショーもありました

による実行委員会形式で、中央公民館とMウィングで実施されています。

市民活動を伝え続けて17年 サポートセンター通信

市役所大手事務所の松本市民活動サポートセンター(以下サポセン)が発行している機関紙が、通称サポセン通信です。

1995年の阪神淡路大震災を機に、松本でもボランティア活動やNPO法人立上げなどが顕著になり、2005年9月にサポセンを開設しました。

以来17年、市民の活動支援・人材育成支援・活動団体の交流の場として運営され、現在の登録団体は236を数えます。

各種の活動を伝え続けた

のサポセン通信で、2月15日に100号記念号が発刊されました。(現在101号発刊済)

サポセン通信は、登録団体の活動・市民活動フォーラム・市民活動講座・ボランティア相談コーナーをはじめ、今に続くふれあいサロン・プラチナサロン開設などのサポセン独自の活動、支える人たちがコーナーのように、市民団体の活動を伝えてきました。

これからも切磋琢磨していく市民活動の様子を、サポセン通信は見守り、伝え続けていくことでしよう。

松本市市民活動サポートセンター【公式チャンネル】はこちら



視点

⑫ 松本大学 矢内和博 准教授
 やないわくろ
 もったいないなごころ
 地域ひろく

0円で産業振興

松本大学の矢内先生（健康栄養学科）の研究室では、長野県の農家や企業と連携し、SDGsに着目した商品開発を行っています。

たとえば、製造過程で不要となる栄養豊富な皮や実を活用し、下伊那郡高森町では「生市田柿クレープ」を、奈川地区では奈川中学校と共同で「そばチュロス」を開発しました。商品の流通には、食品スーパーや高速道路のサービスエリアも提携します。



▲おいしい生市田柿クレープ

スイーツで人を育てる

矢内研究室の学生は商品の販売促進の一環として、実際に売り場に立って宣伝も行うそうです。矢内先生は「人に説明し、理解し、買ってもらうプロセスを学んでほしい」と話します。活動は学生の主体性や行動力にもつながり、卒業後の仕事でも活かされています。



▲現場で販売促進を行う大学生たち

食はつながるツール

商品開発のきっかけの多く

また「地域とのつながりが深まると、学生も地域に根付いてくれる」と語り、大学での地域活動の経験が、自身が暮らす地域の人材育成の機会になることを目指します。

は、大学に地元の農家や企業から話が舞い込んだこと。集まった情報を広く普及させるための手段として、商品はつくられています。

「開発した商品は、あくまで地元の名産をお知らせするツール。地域に利益が起きてくるような仕組みをつくり、自己満足で終わらない、地域に貢献できる仕事になりたい」と矢内先生は語ります。

食でつながった地域と大学は、松本から長野県へ、長野県から全国へ届く魅力ある取り組みをつけています。

矢内先生にインタビュー!



令和5年度 新任公民館職員

●公民館長
 東部 小澤佐智浩
 中部 宮下 隆夫
 南部 堀内 正雄
 庄内 梶山 三男
 鎌田 小嶋 和好
 松南 川上 正彦
 四賀 花村 憲二
 梓川 西牧 和夫
 波田 麻田 仁郎

中央 福村健太郎
 中央 合津 朋実
 中央 矢嶋美智子
 中央 清水 春生
 第三 深澤 佐恵
 東部 降旗 一博
 城東 小林 弘幸
 田川 瀧川 航平
 鎌田 高山 美空
 島内 保科 圭祐
 和野 北澤 智恵美

●館報全市版編集委員

寿丸山 稜雅
 松原 木内 史徳
 入山 齊川 喜之
 四賀 浅沼 喜之
 梓川 安藤ひかり
 波田 小松 一成

第一 山内 敦子
 第三 上條 恒嗣
 東部 降旗 賢一
 城北 尾日向智子
 中央 澤柳 秀子
 安原 大和 靖夫

白板 武居 良和
 庄内 大野田 彰孝
 鎌田 南雲多榮子
 島内 川上 弘
 中山 眞次 敬子
 島立 上條貴志子
 新村 山口 茂
 塩原 眞由美
 藤澤 良彦
 窪田 守
 村田 正幸
 上平 貴明
 江藤 弘子
 曾根原 豊

岡田 増沢 忠芳
 入山 大澤 深志
 里山 渡邊 昇
 今井 中村 栄一
 内田 小池 睦美
 本郷 加藤 京子
 四賀 松村 武美
 安曇 赤穂 鉄雄
 梓川 森 豊樹
 波田 古田 太陽
 大学生 杉江 夏実
 大学生 工藤 夏実

（令和5年7月30日現在）

これは、大学に地元の農家や企業から話が舞い込んだこと。集まった情報を広く普及させるための手段として、商品はつくられています。

「開発した商品は、あくまで地元の名産をお知らせするツール。地域に利益が起きてくるような仕組みをつくり、自己満足で終わらない、地域に貢献できる仕事になりたい」と矢内先生は語ります。

食でつながった地域と大学は、松本から長野県へ、長野県から全国へ届く魅力ある取り組みをつけています。

おこひる

これからの行事イベントがコロナ禍と上手に付き合っている、対策しながら、以前のようになれるように触れ合いの場が戻って来ることを期待する

▼5月の連休に御柱大祭に参加し、里曳き・建御柱など、その都度木遣り師の熱い力、パワーやエネルギーを頂いた。翌日足腰が痛く、日頃の運動不足を感じ「週1ウォーク」で鍛えなければと痛感▼宵祭りの奉祝花火、4年振りの子ども神輿や浦安の舞奉納があり、争いの絶えない現在、この祈りを大切に心一杯になった。子どもたちへの伝統行事の伝承とその継続を大切にしたいと思う▼毎年春秋行なわれる薄川堤防の草刈り清掃に参加し、相変わらず丈夫なツル草などを刈り取り堤防一面がさっぱりした。ここは松本マラソンのコースで、選手の方々が桜並木や山々と応援の声を背に受け快適に走ることだろう▼今後もコロナ禍の終息を祈りお互いの共助で穏やかな社会を望み、無理なく気兼ねなく行事やイベントなどに参加していきたいと思う。

歴史探訪

探ろう松本 35

本郷地区

自然が豊かな里山と肥沃な扇状地や沢に位置し、松本に水を運ぶ女鳥羽川と古い歴史をもつ浅間温泉が有名です

地区の概要

松本市東北部の女鳥羽川流域にあり83%が山地です。明治22年(1889)に本郷村が誕生し、昭和49年(1974)に松本市に編入合併しました。北部に三才山、稲倉洞原、水汲、中心部に浅間温泉、南部に南浅間、大村、惣社、横田の町会があります。令和5年5月1日現在14410人、6929世帯が居住しています。

歴史ある地区

縄文・弥生時代の遺跡、遺物が発見され、5世紀中頃の桜ヶ丘古墳からは県宝の「金銅製天冠」が出土しています。鎌倉時代の歴史書「吾妻鏡」



松明祭り

浅間温泉に古くから伝わり五穀豊穡と安寧を願い、顔に炭を塗り、練り歩く

「浅間社」の名称が登場し、このころから浅間温泉と呼ばれ始めたと思われる。江戸時代には湯宿が増え、また松本城主、石川氏が保養のために御殿湯を作らせており、今も続いています。

明治33年(1899)、電燈がつき「浅間温泉は不夜城のごとし」と称されました。大正時代には養蚕業の隆盛により「松本の奥座敷」としてにぎわい、大正13年(1924)松本駅と浅間温泉を結ぶ路面電車も開業、昭和39年(1964)廃線まで「チンチン電車」の愛称で親しまれました。

スポーツと文化の地

大正15年(1926)に県営野球場や県営運動場が完成。昭和44年(1969)に浅間温泉国際スケートセンターができ、高速リンクとして知られ、国体も開催されました。現在でもセキスイハイム松本スタジアムのほか、かりがねサッカー場、美鈴湖自



美しいレンゲツツジの中、疾走

転車競技場、浅間温泉庭球公園などが整備され、平成12年(2000)から「ツール・ド・美ヶ原高原自転車レース大会」が行われています。また、「OMF」が開催されるキッズ文化ホールもあり、スポーツと文化の発信地となっています。

地区活動の発信地

本郷村時代から女性たちの活動が活発で、昭和50年(1975)には、婦人団体が連合して文化祭を開催、現在の本郷地区文化祭につながっています。また、当時始めた保健指導員制度が合併後、「健康づくり推進員」として市全体に展開されました。

来年、松本市との合併50周年を迎えるにあたり、その歩みを記念誌にまとめ、イベントも検討中で、今後の地区の活性化につながるつもりです。

 **松本平の野鳥たち**



カッコウ (2022.5 松本市南原 写真提供: 信州野鳥の会)

ハトくらいの大きさで、「カッコウ、カッコウ」と鳴くおなじみの夏鳥。草原、耕地、牧草地や小さな林がある明るく開けた環境を好む。ヨシキリ類、モズ類など他の鳥の巣に卵を産み育ててもらう。(托卵) 仮親とする鳥たちと共に近年減少が心配されている。(日本では、托卵はカッコウ、ホトトギス、ジュウイチ、ツツドリ)の4種)

 **まつもと散歩**

当たり前の日常が
何よりいちばんの幸せ
みんなの笑顔も 夏の日差しも



(撮影: 2023.6.19 あがたの森公園)